

表紙について 若手農業者との合同ワークショップ研修

昨年12月10日、豊岡市農業委員会の初めての試みとして、ワークショップの手法を学ぶ研修会を開催しました。

ワークショップは、話し合いの場で立場や年齢などにとらわれず、多様な意見を拾い上げる手法の一つとして活用されています。

今回は市内で就農する（将来就農を予定する）50歳未満の若手農業者と合同で開催。新型コロナウイルス感染症防止として「ソーシャルディスタンス」の確保のため、午前、午後の分散開催となりましたが、農業委員会（農業委員・農地利用最適化推進委員）34名、若手農業者34名の参加がありました。

研修会では、冒頭に豊岡市認定農業者連絡協議会 事務局長 霜倉和典氏から「人を育て、地域を守る」をテーマにご講話頂きました。

若手農業者からは、6名がご自分の営農活動についてプレゼンテーションを行って頂きました。

霜倉事務局長の将来を見据えた農業経営論や若手育成への情熱、若者の熱意ある仕事ぶりが窺えました。

研修内容は次のとおりです。
ファシリテーター（進行役）の、合同会社 人・まち・住まい研究所 代表社員 浅見雅之氏より、実践指

導を受けました。

今回の話し合いのテーマは農業委員会の役割である「農地利用の最適化」の次の3つの項目です。

- 1 担い手への農地利用の集積・集約化
 - 2 遊休農地の発生防止・解消
 - 3 新規参入の促進
- ワークショップの手順は次のとおりです。
- (1) 参加者が5〜6グループに分かれて、話し合うテーマを選択
 - (2) 全員がアイデアや課題・疑問に思っていることなどを付箋紙に書き出す
 - (3) 模造紙に付箋紙を貼り、グループ内で意見を共有
 - (4) 各グループの模造紙を使い、全員で意見を共有

参加者の感想

「ワークショップは全員が意見を出し合うことが大切。だからこそ納得感が持てる」
「地域の話し合いの場面で活用できる」など

約2時間の研修でしたが、普段の集会とは違う手法を体験することができました。

さらに今回は、若手農業者との接点づくりの機会となりました。若者の発想や考え、農業への意欲的な取り組みを知ること、農業委員会の活動においても良い刺激となりました。

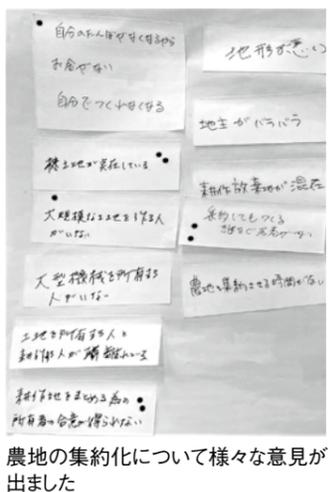
参加者アンケート

- ・若手農業者より
- ・「また交流機会を設けてほしい」
- ・「地域の農業の詳しい情報がほしい」
- ・「サポートを希望される声がありました。」
- ・「農業委員会の委員より」
- ・「地域で頑張る若者が頼もしく応援したい」
- ・「何でも相談してほしい」など、若手農業者を支援したい意見が多数ありました。

今回を契機として、農業委員会では、今後も将来を担う若手農業者と繋がりをもち、育成支援として相互の情報交換や相談等の活動を行っていきます。

今回の研修で学んだワークショップ形式の合意形成は、話し合いの第一歩で、ゴールではありません。それを足がかりに具体的な活動に結びつけていく必要があります。

今後、各集落の座談会、営農組織の集会など、さまざまな場面で応用されていくことを期待します。



農地の集約化について様々な意見が出ました

頑張ってます！農地利用最適化推進活動 No.12

神美地区 (豊岡地域)



一昨年より農地利用最適化推進委員を受けることになり、今まで以上に農地の状況変化が気がかりになりました。

以前から相続関係、高齢化などで耕作出来なくなったとの相談を受けて対応してきましたが、最近では水利状況が悪い、あるいは不整形農地などの自己保全的管理が目立ちます（トラクターなどで草の管理のみ）。

神美地区の場合、谷筋地形から六方平野まで地形はかなり異なりますが、過去には田植えともなれば皆さんが一緒に水田で動き出すのが普通で、代掻きともなれば水が出ないとのクレームが頻発しましたが、現在では不思議なバランスが取れた状態が生まれています。

兼業農家の高齢



松岡秀明推進委員 神美地区



平峰農業委員 神美地区



栗原農業委員 神美地区



井堰の点検管理

今後は地域での農地保全活動などと上手く連動させて中堅・大型農家の農地集積に結びつけるサポーターが不可欠の要素になると確信しています。

皆様のご協力をお願いします。

（推進委員 松岡 秀明）

資母地区 (但東地域)



但東地域の資母地区は、但東町の東部に位置します。

平坦農地もありますが、ほぼ中山間農地となっており、水稻等の土地利用型農業が中心となっています。

この地域の高齢化率も豊岡市内第1位（47・4％）です。
当地域では、水稻の他に夏秋ピーマン、シルクコーン、山ウド、小豆、ソバなどが栽培されています。

農地利用最適化推進委員の活動として、農地パトロールを通して、地域の遊休・荒廃農地の把握及び保全管理田等不作付地の調査を定期的に実施しています。

農地の実情としては、作付利用に至らず、やむを得ず自己保全管理に留まっている農地が多く見受けられています。

その背景には高齢化、地域の担い手不足、兼業農家の減少など、農業をされないサラリーマン家庭が増え、地域としてのどのように農地を守っていくべきかを地域課題として考えていかなければなら



日向(ひなだ)から畑山方向

い時期に来ています。また、近年シカや特にイノシシの被害がひどく、栽培意欲をなくす状況となっています。

被害対策として、ワイヤーメッシュ柵を設置していましたが、更にトタンを取り付ける事が必要になり、「ここまでせなあかんのか」「やっとならんわ」との声を聞く機会が増えていきます。

今後も農業者、所有者の声を聞き、地域の皆様と話し合いながら、農地の管理、利用促進に取り組みたいと考えます。

（推進委員 松本 雅浩）



松本推進委員 資母地区



大谷農業委員 資母地区

寿司・割烹 なか井

舌つづみ処

Tel.0796-23-7897 Fax.0796-23-8181

〒668-0033 兵庫県豊岡市中央町12-21

◆URL/https://www.nakai-toyooka.com

◆MAIL/info@nakai-toyooka.com

秋篠宮家/御献食の店
ミシュラン ビブグルマンの店

・日本調理師連合/師範
・全国日本料理業芽生会会員
・県厨士会会員

■営業時間
午前11:00～午後2:00
午後5:00～午後10:00

携帯アクセスはこちら▶